

# 北代縄文通信

## 復原竪穴住居の修理工事を開始しました！

北代縄文広場では、発掘調査や古建築の研究成果に基づき、縄文時代の竪穴住居を5棟、高床倉庫を1棟、それぞれ実物大で復原しています。富山市では、今年度から国・県のご指導の下、オープンから11年が経過して老朽化した復原竪穴住居の修理工事を開始しました。

広場の修理工事は次年度以降も数ヶ年継続する予定ですので、来場者の皆さんには復原建物の見学等にご不便をお掛けすることになりますが、ご理解・ご協力賜りますようお願いいたします。広場内は、修理工事期間中も工事範囲以外は自由にご利用いただけます。工事を行っていない復原建物はこれまで通り見学可能です。

### 復原竪穴住居(復原建物5)の修理工事の概要

屋根に被せてあった土を除去し、垂木<sup>たるき</sup>など建築材の劣化状況を確認しながら解体する作業を、7～8月に実施しました。

#### 1. 小屋根と屋根土の除去

バリケードを設置して、来場者の皆さんの安全を確保した後、屋内<sup>おくないろ</sup>炉<sup>けむりだ</sup>の煙出し用窓を保護する頂部の小屋根<sup>こやね</sup>を取り外すことから工事が始まりました。写真1は、本格



写真1 小屋根を取り外した段階



写真2 屋根に被せてあった土を除去した段階

的な解体に備え、屋内に雨が入らないようシートで養生した状況です。

その後、平均厚約25cmで被せられていた土を慎重に取り除きました(写真2)。建築材や竪穴が雨や紫外線の影響を受けにくくするため、テントで復原建物全体を覆って作業しました。

当初、本建物の屋根は内側から建築

材→クリ樹皮（三重）葺き→そだ木（細い枝）葺き→土葺きという構造で復原されました。しかし、復原から約12年の間に、煙で燻され続けた小屋根付近を除いて、樹皮やそだ木、小舞（垂木と直交方向に掛け渡した細い材）はその大部分が腐り、消失していました。

桁や梁、主柱や垂木の上部は銝色に変化し、煤が付着していました（写真3）。

このような部分はキクイムシ等の虫害がなく、約12年経った今でも強度上、何の遜色もないことがわかりました。



写真3 建築材上部の現況

## 2. 屋根崩壊の原因の推定

本建物は、台風など大雨の影響を受けて屋根が数ヶ所陥没していました。屋根土を除去し、建築材の全体像を見ることができるようになって、陥没の過程・原因を推定できるようになりました。

写真4は、屋根が陥没し、被せてあった土が屋内に流入したことがある部分付近の現況です。消失しかかった樹皮や小舞は、除去した段階で撮影したものです。

白丸部分の垂木尻に注目すると、3本とも折れています。当該部分は土中に埋没していたため、細菌など土壌微生物等の影響によって折れたと考えられます。3本の垂木は、折れたことによって他の垂木と比べて内側に落ち込んでいます。白丸上方の小舞も、この動きに引っ張られていました。

当該部分では、①樹皮や小舞、そだ木が劣化し、屋根土を支える強度が低下するなかで、②垂木が内側へと動いたことに伴い、樹皮や小舞、そだ木による屋根構造の耐加重バランスが崩れ、③最も脆弱な壁面上部で屋根の陥没が生じたと推定されます。

屋根の陥没箇所は他にも数ヶ所ありましたが、垂木尻が折れていたのはこの3本だけでした。ただ、陥没していない部分を含めて、程度の差はあれ垂木尻すべてが腐食しており、土壌微生物等の影響をいかに低減させるかが、土屋根の保全の鍵になりそうです。今後、土壌や木材等の専門家か



写真4 陥没箇所付近の建築材の現況  
（白丸付近が陥没部分）



写真5 建築材除去後の現況

らの指導を仰ぎ、改善策の検討を行います。

### 3. 竪穴内部の現況確認と埋戻し、今後の作業

建築材を除去した後は、主柱や垂木を支えていた金属部品等の劣化状況を確認し、竪穴内部の湿気を除去するため、数日乾燥させました(写真5)。

屋根に被せていた土は、根などを取り除いて土のう袋に詰め、その土のう袋等を用いて、竪穴内部を養生しつつ埋戻しました。現在は、解体した建築材を詳細に観察し、転用できる材をピックアップしたところです。劣化により転用できない材は新たに材を調達し、加工作業を進めています。十分な乾燥と防腐処理を施し、来年度に材を組み上げて竪穴住居を復原する予定です。元通りの姿に戻るまでしばらくかかりますが、楽しみにお待ちください。



写真6 現地作業後の現況

## 解説ボランティア研修旅行記

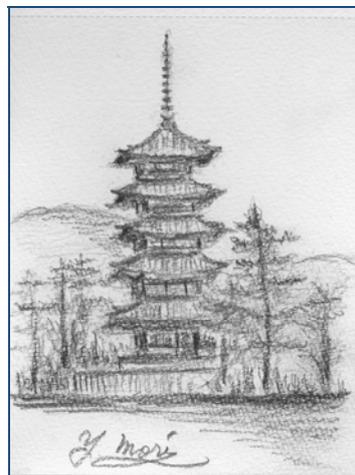
森 喜 美

北代縄文広場解説ボランティアの会は、有志11名で平成21年11月17～18日に奈良方面へ研修旅行に行ってきました。ここで、その概要を報告します。

**初日** 朝はあいにくの小雨模様でしたが、加越能観光の名物ガイド「福ちゃん」こと福本さんの元気な挨拶に迎えられ、北代縄文広場を出発したのです。車内ではとにかく飽きさせない「福ちゃん」の名調子を聞きながら、北陸道と名神をひた走り、お昼すぎには奈良へ到着し、若草山の麓で昼食をとるという段取りどおりの進み方でした。

最初に興福寺の仮金堂に特別展示された阿修羅像を拝観する計画で、電話で確認したところ2時間待ちとのことでしたが、でもとにかく興福寺へ行こうということになりました。国宝館や東金堂の仏像を拝観している間に、随分仮金堂の行列が短くなったことに気が付き、案内所で聞いてみると今なら15分待ちで拝観できるとのことです。これぞ神様、いや仏様のご加護とばかり、拝観の行列に並んだのです。

仮金堂には国宝八部衆が釈迦如来像を中心にして安置されていましたが、なかでもやはり阿修羅像は圧巻で、国宝館の中では何度も拝観しているものの、このようにお堂の中で淡い光に照らされた阿修羅像は、悲しげで何かを訴えるような眼差しをして、私たちを迎えてくれたのです。しかしお堂の中ではその恍惚感にゆっくり浸っている余裕はなく、人の波に押されるように外へ出されてしまったのです。また、国宝北円堂では運慶の肖像彫刻の最高傑作である無著・世親菩薩立像を拝観したのですが、これ



興福寺五重塔のスケッチ

はまた阿修羅像とは異なり、高い格調とゆるぎない実在感をもって、見る者を圧倒するのです。普段は見るできないこのような仏像を、平城京遷都1300年の行事の一環として拝観できたのは本当に幸運でした。

興福寺での阿修羅像の興奮が醒めやらない私たち一行は、次の目的地である唐招提寺へと向かいました。唐招提寺は長年の間金堂の修復工事が行われていたのですが、最近完了して天平建築の優美な姿や、国宝の盧舎那仏や薬師如来などをゆっくりと拝観することができました。ただ残念だったのは鑑真和上の像が、公開日ではなかったため拝観することができず、心残りではありましたが夕暮れが迫った唐招提寺をあとにして、今日の宿である檀原観光ホテルへと向かったのです。

ホテルでの懇親会では今日見た阿修羅像の話題で盛り上がり、Nさんは亡くなった女優の夏目雅子そっくりだったと感激して話されるなど、いつもの懇親会とは随分格調の高い雰囲気でした。

**2日目** 初日とは打って変わった快晴で、朝食のあとまず近くの檀原神宮へ参拝し、檀原考古学研究所附属博物館へと向かいました。この博物館ではまずその展示している遺物の多さに度胆を抜かれました。私たちが関係している縄文時代に関しても、多くの石器や土器などが展示してありましたが、富山と奈良という直線距離で約250km離れているためか、土器も形や模様が異なり、北代の土器の方が優れているのではないかと、なんだか勝ったような気持ちになりながら眺めたのです。縄文時代のブースを見学した後、弥生・古墳と見学していったのですが、古墳時代のブースでは巨大な埴輪の群れに圧倒され、また古墳の副葬品の数々にも驚きの声を挙げながら、古代の人々の生活に思いを馳せる一時を過ごしたのです。

昼食を明日香村で食べたあと、石舞台古墳を見学したのですが、ここからは地元のボランティアガイドさんが案内してくださいました。このガイドさんがナント88才で、しかもかくしゃく矍鑠として大きな声で説明されるその姿は、どう見ても米寿を迎えた人には見えず、私たちもこの方を見習わなくっちゃと、「まだまだこれからだ」という気持ちにさせられるのです。



石舞台古墳での記念撮影

石舞台古墳の後は高松塚古墳と壁画館、キトラ古墳とそれぞれ壁画で話題になった古墳を案内していただき、そこで米寿のガイドさんとは別れ、「まだまだ見たい所は一杯あるのになあ」と後ろ髪をひかれる思いで帰宅の途についたのです。

今回の研修旅行は私たちが普段関係している縄文時代だけでなく、古墳時代や奈良～鎌倉時代にまで関係する遺跡や遺物、仏像などを見学しました。歴史を知る楽しさをたくさん味わうことができた研修旅行になりました。

★ 北代縄文広場ホームページ <http://homepage2.nifty.com/kitadai/>  
**どんどん更新中！ アクセスしてね。待ってま〜す。**

北代縄文通信 第31号：編集・発行 富山市教育委員会 埋蔵文化財センター